



多摩川
二子の渡しから



二子坂戸緑道
(旧平瀬川)

高津の さんぽみち

水みちたどり 文化をめぐる

二子・諏訪・北見方コースは、区内を東西に流れる二ヶ領用水やそれらの跡地である二子坂戸緑道をたどり、諏訪や北見方に集積する社寺仏閣をはじめとする歴史・文化的資源を巡るなど、高津区の様々な姿を体感できるルートです。

また、サブルートである二子の渡しや諏訪の渡しがあった多摩川に出ると、開放的な景色とさわやかな風を感じることができます。

ぜひ一度のんびり歩いては、いかがでしょうか。

平成29年10月
企画課044(861)3135

～ 高津区では、地域の魅力を生かしたさんぽみちを設けています。～

高津区役所



B 二子塚跡 (ふたこづかあと)
古墳の説がある。一つは約300坪、他は180坪ほどの二つの塚があった。塚と塚の間を奥州古道の小路が通っていたとの説がある。

トロリーバス
現存する川崎市のトロリーバスの最後の1両。車体中央部から突き出したうさぎの耳のような2本のポールが特徴で、道路上に張られた架線から電気をとって走行した。
昭和26年(1951年)から昭和42年(1967年)まで、川崎駅から水江町まで7.30キロの路線は、市電と共に川崎市の工業都市の復興に大いに貢献した。

C 二子坂戸緑道 (ふたこさかどりよくどう)
二子塚の付近は久地の円筒分水から二ヶ領用水(川崎堀)と六ヶ村堀、根方堀、それに平瀬川等が交差し、分離する箇所の流れが曲がりくねり複雑な地帯であった。
本流と平瀬川の改修により流れが変わり、その跡地が緑道となっている。

E 高津区内最古の道標 (さいこのどうひょう)
寛政11年(1799年)に建立された区内最古の道標とみられる。昭和41年(1966年)に川崎市立日本民家園に寄贈されていたものを、北見方町会が平成23年(2011年)に元あった場所に戻した。江戸時代八王子と東海道川崎宿に通じる三差路で、「左のみち、右のかわさき道」と書かれており、かつては府中街道を「かわさき道」、その他の道を「のみち」と呼んだことを物語っている。

F 正福寺 (しょうふくじ)
真言宗智山派、白王山と号する。天和2年(1682年)寂の法印快雅の開山という。昭和20年(1945年)に戦災で焼失し、現在の本堂は平成11年(1999年)に再建された。

G 白髭神社 (しらひげじんじゃ)
慶長15年(1610年)頃、北見方総社として創建された。北見方はかつて6つの字に分かれていたが、各字の氏神は明治39年(1906年)の神社合祀令によって、すべて白髭神社に合祀された。現在の社殿は、氏子中の総意をもって、平成18年(2006年)に竣功した。

L 明王院 (みょうおういん)
開山、創建は古いが明確ではない。真言宗智山派で本尊は不動明王。境内には観音堂があり、二ヶ領用水の工事に協力した小黒左近の墓もある。

M 諏訪神社 (すわじんじゃ)
慶長の初め、諏訪左近頼久が建立。当初は二子、諏訪、北見方、坂戸村の鎮守社であった。明治33年(1900年)の省令により杉山社、大陸天社、神明社、稲荷社を合祀して村社、諏訪神社と言う。

N 一本松の碑 (いっぽんまつのひ)
約400年前、諏訪左近頼久(小黒家の祖)がこの地を開いた際に諏訪大社の神木として植えられた名木の碑、「諏訪の一本松」と呼ばれていた。

二子の渡し (ふたこのわたし)
多摩川の二子付近は洪水のため流れが度々変わり、冬季は減水し石河原となり架橋して渡った。夏季は増水するのでも渡し船で渡っていた。大正14年(1925年)二子橋が完成したので渡し船は廃止されたが、大山街道活性化のイベントとして平成23年(2011年)から二子の渡し体験が開催されている。





二子・諏訪・北見方コース（最大標高差：6m）

